



週間展望

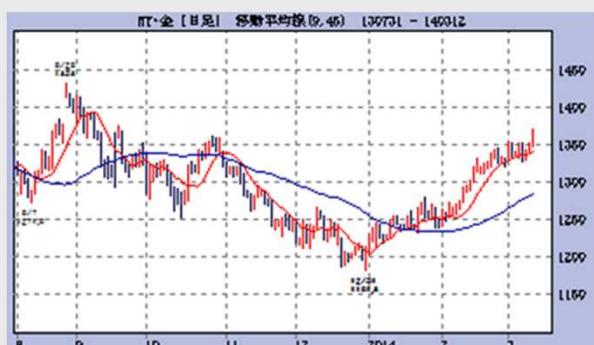
2014年3月17日の週

You can imagine the forecast of next week's futures market in only 5 minutes.

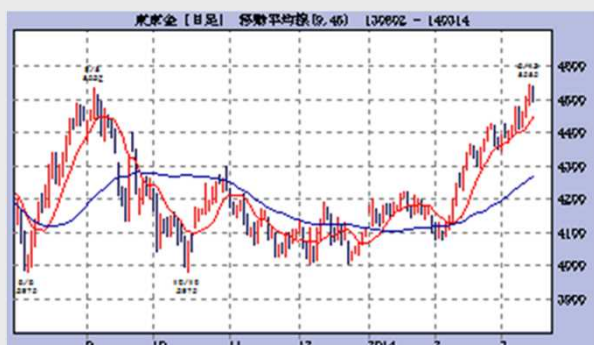
Precious Metals

発行日 2014年3月14日 (金)

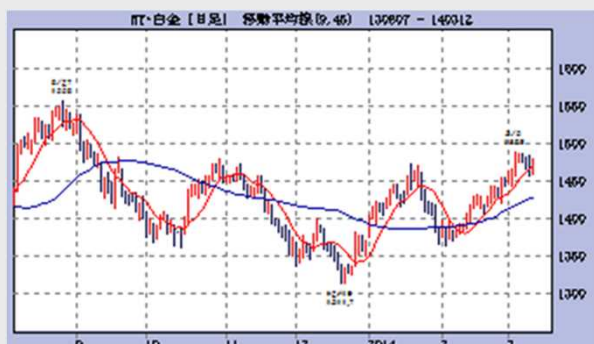
NY金チャート



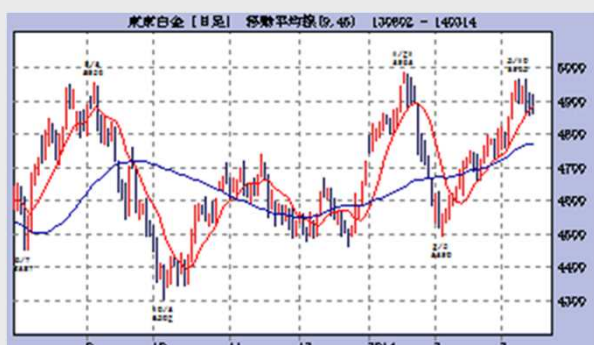
東京金チャート



NY白金チャート



東京白金チャート



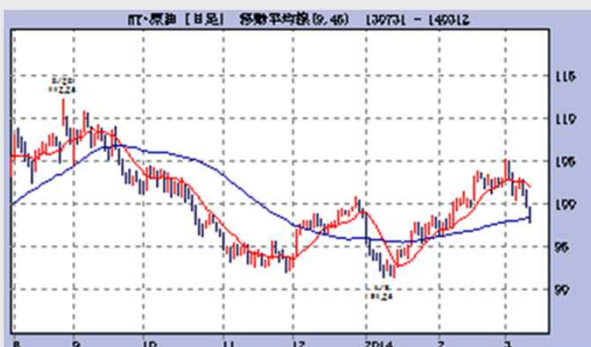
【金】

今もっとも大きな金価格上昇要因は中国である。ウクライナではない。ウクライナの場合は、戦争の可能性は皆無である。米国とロシアが対立しているといっても1時間半も首脳会談が電話で行われている。そこで何が離れているかわからない。クリミア半島はフルシチョフがコザックの関係から1954年にウクライナに割譲した領土であり、住民はロシア人でロシア語を話し、ロシアのカスピ海で生産される原油の輸出港であり、ロシア海軍基地である。住民投票でロシアに帰属すると決議されたら、米国や欧州が反対する根拠は乏しく、軍による強制的な選挙であるというような理屈でしかない。ましてやそのことを理由に米軍がクリミアを防衛するなどということはありません。米海軍はウクライナ問題が発生してから駆逐艦を一隻派遣しただけであり、強大なロシア海軍基地で駆逐艦一隻では何ほどのこともない。一方で、中国の李克強首相は、理財商品のデフォルトも致し方ないとの態度で、吉林省信託が発行した松花江77号9.7億円の救済を見送った。この程度なら混乱はないという判断であろう。しかし、年内に満期を迎える約4兆元の理財商品の一部がデフォルトになれば、数千億円規模の不良債権となる。果たしてそれを中国の金融機関は処理できるのだろうか。米国におけるファニーメイやフレディーマックのような四大銀行の子会社である投資会社が不良債権を買い取る豊作を取るものとも思われるが、金融機関が無傷でいられることは無いだろう。そうした不安は中国人をして金を買わせるものと思われる。金価格は強含みで推移すると思われる。予想レンジ NY金1350ドル~1400ドル 東京金 4400円~4600円

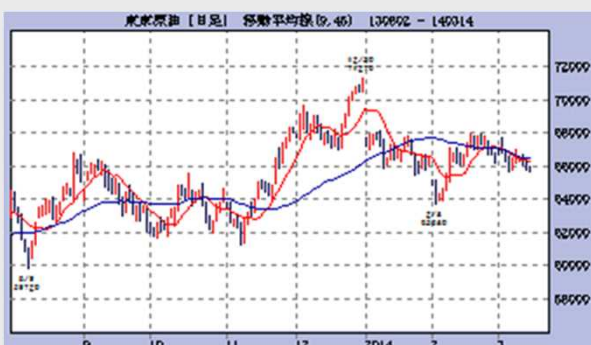
【プラチナ】1月20日から始まった南アのストライキは53日を経過した。一日当たり約300kgの生産ストップであるので、既に15トン900キロの生産減である。2012年の▲10.6トン、2013年の▲18.8トンの供給不足と併せると45.3トンに及び、これは昨年のプラチナ鉱山生産量178.5トンの25%に相当する。在庫があるから大丈夫というアナリストがいたが、どこにあるのか聞いてみたい。南アの鉱山生産量は128トンなので、月間生産量は約10トンである。▲15.9トンとは1.6ヶ月分に相当する。通常鉱山の在庫量はあっても2か月分程度であろう。ということは、もうほとんど売れる在庫は無くなりつつあるということである。そうした状態なのに、プラチナ価格は全く上がっていない。これは明らかに市場の方がおかしい。どんな商品であれ、世界の生産者の在庫がほとんどなくなりつつあるのに価格が上がらないということはありません。先物市場が鈍感であるとしか言いようがない。おそらく現物市場から金に糸目をつけずに調達することが始まるだろう。自動車メーカーは在庫が少なくなり、かつ鉱山会社がフォースマジュールでも宣言すれば、自動車が作れなくなるからだ。その時プラチナ価格は高騰するだろう。残念ながら現時点では自動車触媒に使う素材はプラチナ以外にはないと思われる。予想レンジ NYプラチナ価格 1450ドル~1500ドル 東京プラチナ価格 4800円~5000円

Oil

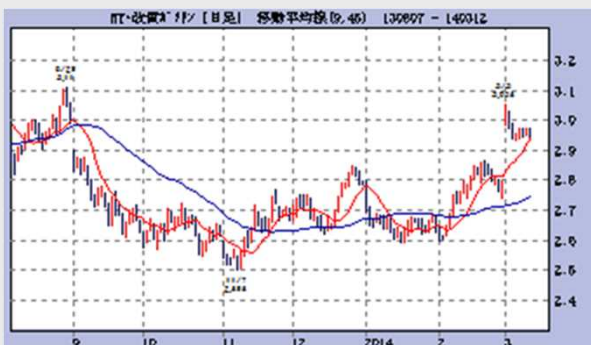
NY原油チャート



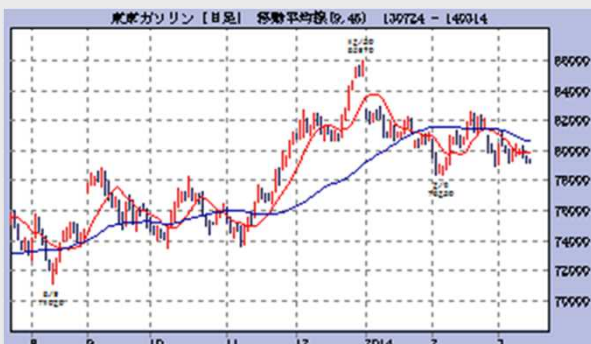
東京原油チャート



NYガソリンチャート



東京ガソリンチャート

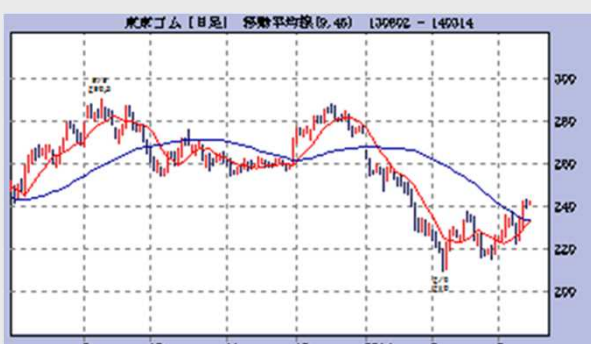


【原油】NY原油は米原油在庫が3カ月ぶりの高水準にあることや、中国経済への懸念の強まりなどから100ドルの節目を割って下落している。米オバマ政権は12日、流通システムの試行の一環として、戦略石油備蓄（SPR）から500万バレルの原油を売却する計画を明らかにした。試験的な売却は3度目。米エネルギー省の広報担当者、ウィリアム・ギボンス氏によると、売却を予定しているのは全体の1%未満で、ウクライナ情勢の混乱など地政学的出来事との関連性はないという。市場参加者の多くも同様の見方をしているも、一部からは1990年8月に400万バレルの売却を行った2度目は、米国がイラクに攻撃する前の月だったと指摘し、ウクライナとロシアの緊張が続くなか、ロシアへの警告ではこの見方も出ている。2014年の世界の原油需要は日量9,114万バレル、非OPECからの供給が6,144万バレル、その差は2,970万バレルで、これがOPECに必要とされる供給量であるが、直近の2月のOPECの生産量は、3,011万バレルなので、このままの生産量が続くと、今年は日量41万バレルの供給過剰となり、3年連続の供給過剰状態が続くこととなる。予想レンジ NY原油価格 95ドル～105ドル 東京原油価格 64000円～66000円

【ガソリン】3月7日の週の米国の石油製品出荷量は石油製品もガソリンも留出油も前週から増加している。しかし、過去5年平均比ではガソリンが+0.1%であるが、席製品は▲0.1%、留出油は▲5.1%少ない水準であり、決して回復しているとは言い難い。石油精製設備稼働率も前週の87.4%から86%に落ちている。石油製品輸出は日量375万バレルと前年同期比+51万バレル増となっている。日本の石油連盟発表の週末在庫（3月2～8日）は、前週比-0.1%の196万0,252キロリットルとほぼ横ばい。推定出荷量は+7.8%の106万0,197キロリットルと堅調。ただ、消費増税前の駆け込み需要の影響も指摘されており、国内需給要因から買い進むような動きは鈍い。原油手動で、弱含みなのではなからうか。予想レンジ NY改質ガソリン 2.8～2.9ドル 東京ガソリン75000円～80000円

Rubber

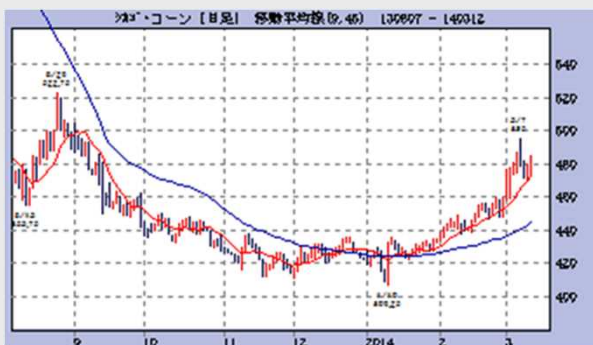
東京天然ゴムチャート



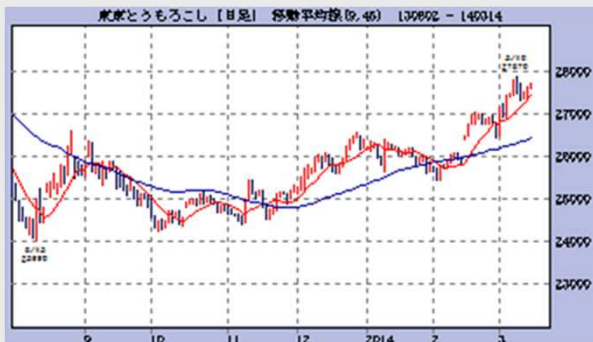
【天然ゴム】東京ゴム価格は240円まで続伸。産地相場が堅調に推移する中、安値是正の動きが活発化している。上海先物相場が年初来安値を更新しており安値を嫌った生産者の売り渋りが警戒されている模様。また、季節要因を背景とした減産圧力も強く、主に供給サイドからの需給引き締め圧力がゴム相場を押し上げている。中国経済の先行き不透明感が強まる中、積極的に買い進むような動きは鈍いが、チャートがダブルボトムを確認した形になっていることもあり、売り方が利益確定目的で買い戻しを先行させている模様だ。上海期貨交易所の取引所認証在庫は、2月7日の20万7,658トンピークに、3月7日時点では19万6,640トンまで、4週連続の減少になっている。産地からの供給が落ち込む中、在庫を取り崩すことで対応が行われている予想レンジ 東京ゴム価格230円～250円

Grain

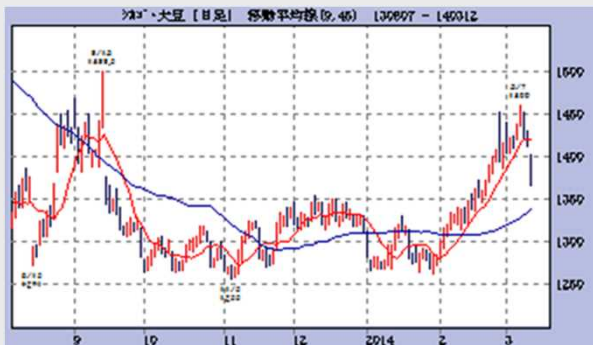
シカゴコーンチャート



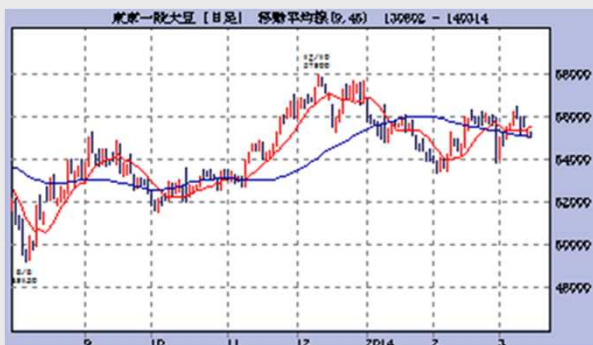
東京コーンチャート



シカゴ大豆チャート



東京一般大豆チャート

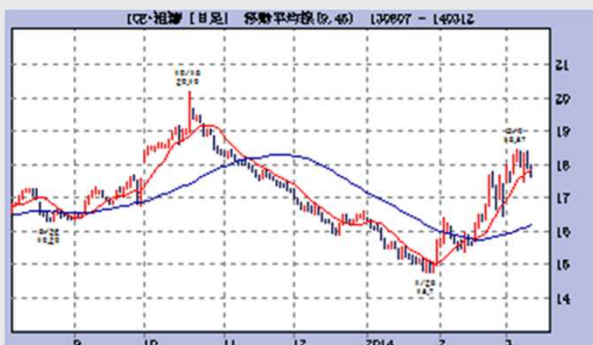


【トウモロコシ】シカゴトウモロコシ価格は、475~490セントを中心に上下動している。米農務省（USDA）の需給報告後には急落する場面も見られたが、押し目での物色意欲は旺盛であり、大きな値崩れは回避されている。2013/14年度の米国産期末在庫見通しは前月の14.81億Bu（在庫率は11.1%）から14.56億Bu（同10.9%）まで引き下げられた。輸出需要見通しが前月の16.00億Buから16.25億Buまで引き上げられたため、足元の良い輸出環境が需給見通しを引き締めている。ただ、マーケットでは最近の輸出動向からは輸出需要の更なる上振れを予測していた向きも多かったため、想定されていた範囲内とやや失望感が優勢になった。加えて、世界期末在庫見通しは前月の1億5,730万トンから1億5,847万トンまで上方修正されており、南米の天候不順の影響は織り込んだとの見方も、一部で失望売りを招いた模様だ。南米からの輸出がたけなわになる中で、ウクライナの出荷不安もあり、少し強含みといったところか。また3月31日の作付意向面積で大豆の方が割高なのでトウモロコシの作付面積が減るとの思惑もあるだろう。初夏になれば穀物価格は上昇するものと思われる。 予想レンジ シカゴトウモロコシ価格 470セント~500セント 東京トウモロコシ価格 27000円~28000円

【大豆】シカゴ大豆価格は3月7日の1,460セントをピークに、1,300セント台後半まで急反落する展開になっている。3月の需給報告で、2013/14年度の米国産期末在庫が市場予測を上回ったことをきっかけに、短期筋の利食い売りが先行している。2月から1ヶ月以上にわたって急伸相場が続いてきたこともあり、短期筋のポジション調整が活発化している。米国産期末在庫見通しは前月の1.50億Bu（在庫率は4.5%）から1.45億Bu（同4.4%）まで下方修正され、12/13年度の1.41億Bu（同4.6%）との差が一段と縮小している。ただ、市場の事前予測は1.41億Bu（レンジは1.25億~1.50億Bu）だったため、マーケットでは期待外れの数値との評価の方が優性になっている。南米からの出荷が続く中で、どれだけ米国産大豆の輸出が伸びるかが注目されるが、3月末の需給報告では大豆の作付面積が増加するとの見通しがあり、その意味では弱気である。ただ、非常にタイトな需給状況には変わりなく、このまま米国産大豆の輸出が順調に増え続けるなら、価格は反騰することもあり得るだろう。 予想レンジ 1300セント~1400セント 東京一般大豆 53000円~55000円

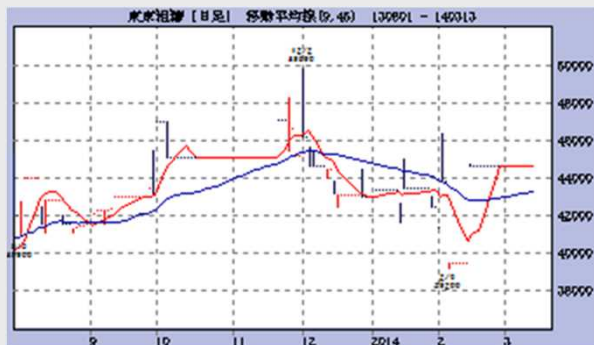
Sugar

NY砂糖チャート



【砂糖】 NY砂糖は18銭と大く下落している。ブラジルでは乾燥した天候が続いており、引き続きサトウキビ生産に対するダメージが強く警戒されている。ただ、急ピッチな価格上昇に対する警戒感も強く、今週は短期筋の利食い売りに上値を抑えられた。押し目での物色意欲は旺盛だが、18セント台から更に買い進むような動きまではみられない。ブラジルでは散発的な降雨が観測されているが、土壌水分環境の改善は遅れており、サトウキビ生産に対する懸念は根強い。ただ世界的な強キユ過剰を解消するほどではないと思われる。

東京粗糖チャート



【砂糖】 予想レンジ NY砂糖価格17セント～18セント

Sidebar



【株価下落】

中国国家统计局が発表した1—2月の主要経済統計は、固定資産投資、鉱工業生産、小売売上高の伸び率が軒並み予想を下回り、数年ぶりの低水準となった。中国经济が1月から2月にかけて著しく減速したことが鮮明になった。ウクライナ情勢をめぐる緊張の高まりに加え、中国の景気減速に対する懸念が重しとなった。終値の前日比は、ダウ工業株30種平均が▲231.19ドル安の1万6108.89ドル、ナスダック総合指数が▲62.91安の4260.42、S&P500が▲21.85安の1846.35。

14日の東京株式市場で日経平均株価は前日比▲488.32円安の14327.66円と3営業日続落で、1ヶ月ぶりの安値で終えた。日経構成の225銘柄はすべて下落して引けている。東証1部の業種別指数でも33業種すべてが下落する全面安の展開。急落したことで追証が発生、換金のための処分売りも入った。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかなを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



COMMODITY
INTELLIGENCE

株式会社コモディティー インテリジェンス

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310

会社電話： 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692

メールアドレス： kondo@commi.cc

発行元：